

くわしく 日曜日

# ぶんぶんジュニア



NIE 教育に新聞を  
エヌ・アイ・イー  
Newspaper In Education

なるほど富山

## 読んでガッテン

カナダ出身の女性、マーガレット・E・アームストロングさん(1877~1960年)が「富山大空襲」の体験を手記に残していたことが分かり、新聞記事で紹介されていました。太平洋戦争が終わりに近づいていた1945(昭和20)年の8月2日、富山市がアメリカ軍の爆撃を受けた大規模な空襲のことです。戦争の記録は大切ですし、外国の人が富山にとどまって空襲を記録していたという事実にも驚きました。もっとくわしく知りたくって、新聞記者に聞いてみました。

—アームストロングさんって、どんな人なの。

富山市に幼稚園(現在のアームストロング青葉幼稚園)をつくった人で、幼児教育に熱心に取り組んだ女性なんだ。カナダ生まれで、1903年にキリスト教を伝えようと来日した。日本名は亜武巢マーガレットさん。日本という国を愛し、県民にもしたわられていたと

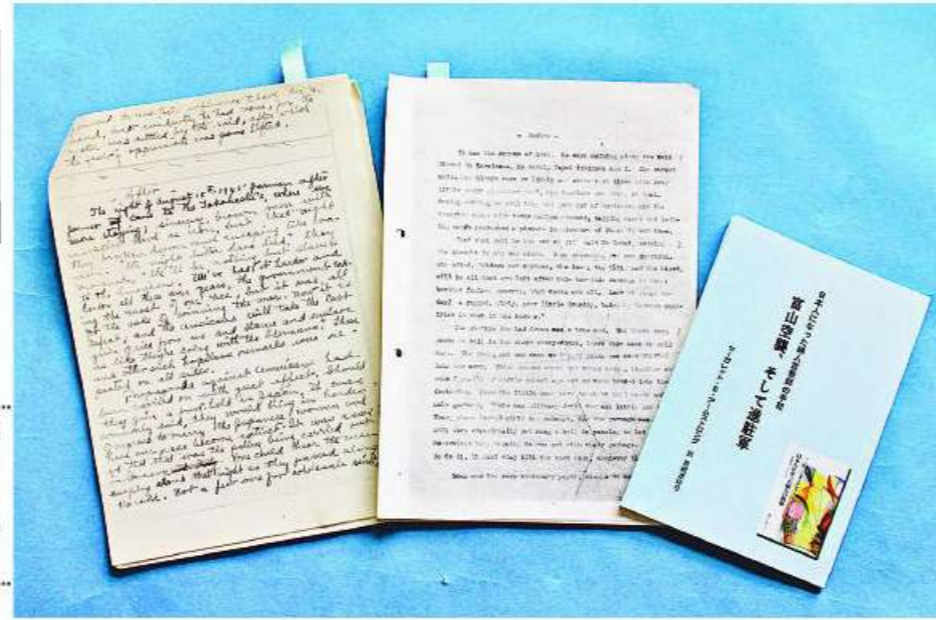
# 富山大空襲の体験記す

## アームストロングさんの手記



アームストロングさん

富山大空襲の体験などをつづった手記と、それをまとめた冊子



—ということだよ。1941年には日本に帰化したそうだ。

—日本人になったということなんだね。

—そうだね。帰化したといっても、欧米人がひとりの市民として戦争にあり、その記録を残したケースはとても珍しいんだ。手記は下書きも含め46枚あり、いずれも英文だった。1944年の夏から45年の秋にかけての出来事が記されていたんだよ。富山大空襲や、食べ物などが不足して悩まされる人々

の生活などが分かる内容だ。

—もっとくわしく教えて。

富山大空襲を説明しよう。1945年8月1日から2日に日付が変わり、人々が眠りにについている時、B29という爆撃機の大編隊が上空に現れ、家などを焼きつくす焼夷弾や爆弾を2時間にわたって落ととしていった。大勢の人が焼け出され、2700人を超える人が亡くなったという。

アームストロングさんが空襲にあったのは、幼稚園内の自宅にいた時だっ

富山大空襲で一夜にしてがれきの山となった富山市中心部



た。熱い風と炎に追われるようにして、神通川へと逃げたそうだ。

その時の様子をこんなふうにも書いている。「爆弾は上空ではじけて、悲鳴のような音を出していた」「けむりは、無数の人間の犠牲がささげられた巨大な祭壇から、立ちのぼっているかのように見えた」。広島に落とされた原爆についても、彼女が感じた苦しみや悩みが伝わってくる。

手記は富山市の詩人、宮崎さゆりさんが翻訳し、フリーライターの堀江節子さんが冊子にまとめている。県立図書館や富山市立図書館に行けば読めるそうだよ。

☆第2、4日曜日に掲載します